

エゾマツカサアブラムシ

エゾマツの枝先に松ぼっくりのようなコブを作る。コブは長さ3～4cm、トゲがある。コブは春～夏は緑色。秋には多数の穴が開き、茶色に変わり、そのまま数年間枝先に残る。

低木でしばしば多発する。



1. 虫えい (左, 1960/9, シカトトウヒ; 右, データなし) .

【学名】 *Adelges japonicus*

【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) , カサアブラムシ科 (Adelgidae)

【分布】 北海道, 本州; サハリン.

【生態】

主にエゾマツに寄生し、アカエゾマツやヨーロッパトウヒにはほとんどみられない。

春から夏に虫えい (虫コブ) の中でアブラムシの幼虫が成長する。8月下旬頃、虫えいに穴が開き、翅のある雌成虫がでてくる。雌成虫は冬芽に1個ずつ卵を産みつける。卵から孵化した幼虫は冬芽について越冬する。4月末頃に幼虫は翅 (はね) のない雌成虫になり、冬芽の基部に卵をまとめて産む。卵は緑色、白い綿状の物質で覆われる。5月中下旬に卵から幼虫が孵化し、開いたばかりの新芽に寄生する。寄生された新芽は虫えいに変形する。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～	
幼虫 (越冬)	+++	+++	+++	+++	+++
幼虫・成虫 (加害)		..	■■■■	■■■■	■■■■	■■■■	■■■■	■■■■		

【被害と防除】

多発すると樹勢が低下するが、木が枯れることはないといわれている。

虫えいは非常に目立ち、数年間は枝に残る。気になるときは虫えいが緑色のときに取り除いて駆除する。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真) .

1994. 尾崎研一. エゾマツカサアブラムシ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集, 森林昆虫, 総論・各論: 473-475. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

エゾマツカサアブラムシ abura/ezokasa/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/16.

kobu.JPG

「写真1」 撮影者不明.